

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立今津小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標と達成状況

**現状と課題**

本校は、昭和43年(1968年)に創立され、今年度58年目をむかえる学校である。比較的歴史の浅い小学校ではあるが、地域から深く愛されている学校であり「健康で明るく 自主的に」の校訓のもと、未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童においては、素直な子どもたちが多く、様々な学習活動に対しひたむきに取り組みたいという態度が見られる。その反面、学力の課題があり、児童の前向きな思いを真摯にとらえ、学校全体で児童の学力向上に継続的に取り組むことに重きを置き、本校においては算数科を研究教科として児童の基礎学力の定着に取り組んだ。その結果、昨年度、年度目標「小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる」において対全国比の目標は0.92であったが、1.02を達成し目標より0.10ポイント上回ることができた。

また、児童数に対して運動場が非常に広い学校であり、意図的計画的に体力・運動能力の育成をすすめながら、生涯体育の観点から自ら取り組み必要とする体力をつけていくことにも取り組んでいきたい。

令和6年度においては、教育目標「豊かな心で自ら考え行動し、思いやりのある優しい子どもを育てる」ことを目指し、学力、体力、道徳力あるいは安全・安心という観点から、工夫をこらした教育活動を進めてきた。その結果、教職員が粘り強く継続的に学校運営、学級運営に取り組んだことで、多くの年間目標を達成することができた。

令和7年度も引き続き大阪市教育振興基本計画(施策目標)の達成のため、本校の特色や課題を教職員全体で協議した上で、3つの最重要課題に対し年度目標を設定した。さらには、今年度は中期目標に対する総括の年度でもあるため、中期目標達成を見据えた取り組みと合わせ、学習や学校生活にかかる規律、自尊感情や他者を思いやる心の育成、不登校児童に対する支援など、本校の現状や課題を見据え、継続的に計画を進めていきたい。

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。

→令和7年度結果、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答する児童の割合は **87.8%**

○令和7年度の学校生活アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。

→令和7年度結果、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答する児童の割合は **88.0%**

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、いずれの学年も100以上にする。

→令和7年度結果 3年生→**103.1** 4年生→**101.1** 5年生→**100.3** 6年生→**101.3**

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、男女とも令和3年度より8ポイント向上させる

令和3年度結果(全国平均は50ポイント) 男子→**45.2** (-4.8) 女子→**39.5** (-10.5)

令和7年度結果(全国平均は50ポイント) 男子→**51.2** (+1.2) 女子→**47.3** (-2.7)

→単純比較において、男子は6ポイント向上 女子は7.8ポイント向上

### 【学びを支える教育環境の充実】

○ICTの活用を進めることにより、令和7年度の学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目において「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を93%以上にする。

→令和7年度結果、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答する児童の割合は**93.0%**

○教職員の働き方改革を進め、令和7年度において教職員の全員が毎月の時間外勤務時間30時間以下となるようにする。

→令和7年度1月現在 達成率は**93.75%**

## 2 中期目標の達成に向けた令和7年度年度目標(全市共通目標を含む)と達成状況

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

→令和7年度結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は**85%**

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

→令和7年度結果、肯定的な回答する児童の割合は**84%**

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。

→令和6年度における対全国比は0.97であり、令和7年度は対全国比の目標は1.01。

結果、4年生→**+0.05**、5年生→**+0.04**、6年生→**-0.02**

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。

→令和7年度結果、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は**66%**

### 【学びを支える教育環境の充実】

●授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%にする〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

→令和7年度 **2日**

※平均活用率については令和6年度 **52.8%**→ 令和7年度 **60.2%**

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

→3月末全教職員が取得の予定

### 3 今年度の自己評価結果の総括

令和7年度の「運営に関する計画」は、大阪市教育振興基本計画に基づき、【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】の3つを最重要課題の柱として推進した。今年度は中期目標の最終年度として、これまでの取組の集大成と次期計画への接続を念頭に教育活動を展開した。

今年度の教育活動を振り返ると、教職員が児童一人ひとりと丁寧に向き合う姿勢を堅持したことで、多くの年間目標で「目標達成（B評価）」以上の成果とした。特に児童が落ち着いて学習に集中できる環境が定着し、主体的かつ伸びやかに個性を生かす教育の充実が図られたことは大きな成果である。

**【安全・安心な教育の推進】** いじめの未然防止や早期発見に向けた組織的な取組を継続した結果、学力経年調査におけるいじめ否定（「いじめはいけないことだ」）の肯定率は85%に達し、目標の80%を上回った。また、自尊感情を測る指標（「自分にはよいところがある」）も84%（目標75%以上）と良好な結果を示した。たてわり班活動などの異学年交流は年間を通じて活発に行われ、高学年としての自覚の芽生えや、他者を思いやる心の育成に大きく寄与した。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】** 国語科を中心とした授業研究を全学年で実施し、児童が主体的・対話的に学ぶ環境を整えた。学力経年調査の標準化得点は全学年で100を超え、基礎学力の定着が確認された。体力面では、「夢・未来」創造事業の活用や「なわとび週間」等の全校的な取組が奏功し、運動に親しむ態度が育まれており、全国体力・運動能力調査の体力合計点が男女とも令和3年度比で大幅に向上した。

**【学びを支える教育環境の充実】** ICT活用においては、学習者用端末の活用率が60.2%まで上昇し、昨年度から7.4%の伸びを見せた。新端末の導入に伴い、情報の共有や家庭持ち帰りの実施も進んでいる。教職員の働き方改革も進展し、年次有給休暇10日以上の取得率は94%に達した。行事の精選や「ゆとりの日」の設定により、時間外勤務時間は昨年度より減少しており、健康で活力ある組織づくりが実を結んでいる。

令和7年度は中期目標の達成を見据えた計画的な教育活動が展開され、児童の安心感と学びの意欲を高めることができた。次年度に向けては、これまでの成果を維持しつつ、さらなる基礎学力の向上やICTのさらなる有効活用、そして児童がより主体的に活動できる場の工夫に注力していく必要がある。（令和8年2月末現在）

大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>→令和7年度結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は <b>85%</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>→令和7年度結果、肯定的な回答する児童の割合は <b>84%</b></p>	<b>B</b>
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。「いじめについて考える日」を設定し、「いじめは人間として絶対に許されない行為である」ことを学校全体で再認識する。</li> <li>・児童の規範意識を高めるため、「学校安心ルール」や「学校生活のきまり」を教職員で共通理解し、児童・保護者に周知徹底する。また、<b>児童会や委員会の活動の一環として啓発活動を行う</b>。看護当番による児童の見守りと児童の実態に応じて、全校朝会や朝の会・終わりの会などで、ルールやきまりの意義などについて説明するとともに、教職員が相互に連携を図りながら平素の指導を行う。</li> <li>・相手の思いや考えを理解しながら話を聴き、相手の気持ちに立って自分の思いや考えを伝えることによって、児童は受け入れられていることへの安心感や充足感を実感するようになる。このような受容的・共感的態度を基盤とし、児童と教師、児童同士のより深い信頼関係のある集団づくりに努める。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめアンケート」を年間3回実施し、「いじめられている」「いじめた」と回答した児童には、早急に聞き取りを行い解消する。</li> <li>・生活指導部会を毎月1回開催し、各学級・学年の状況を共通理解しておく。</li> <li>・<b>児童会や運動委員会による児童への呼びかけを年3回以上実施する</b>。</li> <li>・月に1回、朝会や集会等で、生活指導上必要なことを全体へ周知する。</li> <li>・年3回以上、「学校生活のきまり」を学級で指導するとともに、年間を通して各教室に掲示する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自己有用感や自尊感情を高めるため、係・当番活動や委員会活動など、学校生活の様々な機会ですべて一人一人に活躍の場を与えることにより、児童が集団の一員として自分の役割に気づくようにし、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわ</li> </ul>	<b>B</b>

<p>せる。また、学級活動、終わりの会、道徳科の学習などで互いのよさを認め合える機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な学年と異学年交流を実施することにより、児童が責任感を持って活動するとともに、自己有用感や自尊感情を育てていく。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級で学期に1回以上、互いのよさを認め合える機会を設ける。</li> <li>・<b>たてわり班活動などの全学年による異学年交流の場を年間に10回、学年間単位での異学年交流を各学年2回以上設ける。</b></li> <li>・各学級で学期に1回以上、互いのよさを認め合える機会を設ける。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>【取組内容①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活指導部会」「学校生活のきまりの掲示と指導」「朝会での全体指導」は当初の目標通りに実施できた。</li> <li>・「いじめアンケート」や普段の児童の様子を観察から、いじめやそれにつながりそうな事案の早期発見に努めている。また、いじめと思われる事案が発生した場合には聞き取り調査や指導、保護者への連絡が速やかに行われているほか、生活指導部会を通じて全体への情報の共有もなされた。</li> <li>・「児童会や運動委員会からの呼びかけ」では、毎学期、あいさつ週間という形の呼びかけをした。また、「廊下/階段の安全な通行」や「運動場/ボールの正しい使い方」に関して3学期に呼びかけをおこなった。</li> </ul> <p><b>【取組内容②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間や終わりの会、体育でのチームプレイ、また特別支援ではなかよしタイムなどを活用して互いの良いところや、してもらってうれしかったことなどを伝え合うなどの「互いの良さを認め合える」機会をもうけることで、自尊感情を高める取り組みができた。</li> <li>・たてわり班での児童集会在14回、今小まつりやたてわり交流会、平和集会の折り鶴作りなどでの異学年での交流が12回実施された。今小まつりでは、お店をたてわり班で実施することで児童が主体となって活動することができた。話し合いを中心に、高学年としての役割を意識できる良い機会となった。また、たてわり班での高学年の姿を見て、異学年交流のときに下の学年へのかかわり方を自分で考える姿も見られた。</li> <li>・「学校探検」、「おもちゃランド」や、「給食/掃除の補助」、「交流プール」などで学年間の交流がなされた。また、運動会の団体演技の相互鑑賞や、クラブ活動や委員会活動の内容を伝える取り組み、リコーダーの発表などを通して各学年複数回の異学年交流ができた。</li> </ul>	
<p>次年度にむけた改善点</p>	
<p><b>【取組内容①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目と、「自分には良いところがあると思いますか」の両項目については、目標数値を超えることができた。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目では、学年により20%近くの差があり、「ややそう思う」という回答が多くみられる学年があった。また、「自分には良いところがあると思いますか」の項目に対しても、肯定的に回答</li> </ul>	

してはいても大阪市全体より「ややそう思う」の割合が多い傾向があり、次年度以降に今までの取り組みに加え児童の意識を向上させるための取り組みを進めていく必要がある。

- ・「いじめアンケート」「生活指導部会」「学校生活のきまりの掲示と指導」「朝会での全体指導」に関しては継続して取り組みを進めていく。その中でも「いじめアンケート」やいじめと思われる事案に関してはその内容を必要に応じて教職員全体で共通理解して取り組んでいく。いじめにつながる可能性のある細かな出来事や、いじめにつながらずとも児童個人が深く悩む場面も考えられるため、日ごろから児童との信頼関係の構築に努め、できるだけ多様な方向から見た情報共有に努めていく。
- ・「学校のきまり」など、把握していない（意識していない）保護者が一定数みられるので、家庭への啓発を進めていく。
- ・「廊下/階段の安全な通行」や「運動場/ボールの正しい使い方」に関しては、年度当初に当該委員会で取り組みを計画し、実施していく。

#### 【取組内容②】

- ・異学年交流（たてわり班活動）の際に、児童が主体的に活動できるように取り組みを進め、児童の成長を促す。また、児童集会でたてわり班がグループとして生かしていないことも多いので、たてわり班の形が生かせるような内容を工夫していく。
- ・今小まつりなどのたてわり活動は有用であったが、回数がかさむことで学年での活動計画を立てにくくなった面もあった。より効率的に実施できるように計画を立てていく。
- ・各学年で実施されている異学年交流の内容を集約し、来年度以降にも生かせるようにしていく。とくに、比較的異学年交流の機会が少ない中学年の取り組みとして有用なものを学校全体で考え、共有していく必要がある。

大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.04 ポイント向上させる。</p> <p>→令和6年度における対全国比は 0.97 であり、令和7年度は対全国比の目標は 1.01。</p> <p>結果、4年生→<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">+0.03</span>、5年生→<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">+0.02</span>、6年生→<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">-0.05</span></p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 67%以上にする。</p> <p>→令和7年度結果、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">66%</span></p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が授業研究をする。</li> <li>・学力向上サポート訪問や、外部講師等を有効に活用し、教員の指導力向上及び国語科において児童が意欲的に読み取り、自分の思いや考えをもつ力を培えるようにする。</li> <li>・発達段階に応じた授業の計画を立てる。</li> <li>・場に応じた話型を掲示することで、学びやすい環境を構築する。</li> </ul> <p>指標 今年度の研究主題に基づいた授業を、全学年年1回ずつ実施する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科において、学校として板書やノート指導の共通理解を図る。</li> <li>・3年生以上の学年は、金曜日を「自主学習の日」と設定し、自主学習習慣の定着を図る。</li> <li>・読み取る力を深める指導により、意欲的に学ぶ子どもを育てる。</li> <li>・自主学習ノートを、毎月1回掲示したり、ファイリングをしていつでも見られるようにしたりして家庭学習に生かせるよう工夫する。</li> <li>・週2回の朝の「読書タイム」の時間を設定し、学年に応じた学級文庫の活用を行うことで、多くの書物に出会い、読む習慣を身に付けられるよう工夫する。</li> </ul> <p>指標 小学校学力経年調査における「国語の勉強は好きですか」の項目において肯定的な回答をする3年生から6年生の平均を前年度より5%以上上昇させる。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業では、個人やグループのめあてを明らかにし、目標をもって運動に</li> </ul>	

<p>取り組めるように指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ足週間やなわとび週間などの全校的な取り組みを定期的に行い、より多くの児童が運動に親しめるようにする。</li> <li>・スポーツへの興味関心を高め、楽しく運動に取り組むことができるように、鶴見区役所の「夢・未来」創造事業等の出前授業に取り組む。また校内において、各学年で、スポーツイベント（団体競技）を計画し、実行していく。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを作成・活用し、それを学年ごとのファイルに、単元ごとにファイリングし、次年度以降にも引き継ぎ活用していく。</li> <li>・学年ごと、学期に一回以上、出前授業や合同体育等のスポーツイベントを設ける。</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の前や、体育・遊び・掃除・トイレの後の手洗いへの意識を高め、それを習慣化できるように啓発していく。</li> <li>・学年に応じて、栄養に関する正しい知識の定着を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いへの意識の向上を図り、習慣化できるように、学期に1回、手洗い強調週間を設定する。</li> <li>・栄養教諭による栄養指導を各学年2回以上行う。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の効果：計画的な実施により、児童の意欲が高まり、学力の底上げにつながっていた（授業全体として授業が分かりやすいとの回答 93%）。</li> <li>・個に応じた指導：算数科の習熟度別指導や国語科の（主に）授業研究の取り組みにより、学習に困難を感じる児童への支援・学力保障ができていた。</li> <li>・話し合い活動：まだ十分とは言えないが、自分の考えを伝え合う活動が行われていた。</li> <li>・研究部を中心とした話し合いや意見交換が活発で、実りのある協議ができていた。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書・ノート指導：「共通理解が不十分」「学校単位での統一に至っていない」という意見がある一方、「特別そろえなくてもよい」という意見もあり、スタンスが定まりきっていない。 →来年度の統一する指導を学力向上部で検討する。</li> <li>・話型の掲示：指導自体は行われているが、掲示物としての環境整備が徹底されていない。 →学力向上部で検討する。</li> <li>・読み取る力に比べ、短文づくりや自分の考えを書く力（語彙不足により）が不足している。 →国語タイムの取り組み内容を検討する。</li> </ul> <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の定着：自主学習（71%定着）やノートの掲示を通して、意欲向上が図られていた。</li> <li>・「読み取る力」の指導：「線を引く→まとめる」という一連の指導の流れが定着しつつあり、キーワードや接続語等の指導も継続できていた。</li> <li>・読書への導入：読み聞かせ、図書委員の活動、6年生による紙芝居など、異学年交流を含む活動により、特に低学年で本への興味が高まった。</li> </ul>	

## ○課題

・イベント的な活動（読み聞かせ等）は成功しているが、日常的な読書習慣や、文字の多い物語文等を自発的に読むまでの意欲的な読書にはまだ至っていない児童がいる。

→継続した取り組みを今後も検討する。

・音読：児童間の得意・不得意の差が大きい。

→学力向上部で検討する。

### 【取組内容③】

・学習カードの活用もある程度できていることから、ほとんどの学年で目標をもって体育科の学習に取り組んでいた。

・かけ足週間やなわとび週間を通して、意欲的に運動に取り組む児童も多くみられた。

・合同体育などは、各学年実施できているが、異学年との実施についてはタイミングが難しい場面が多い。

・出前授業については、申し込んでも当選しないと実施できないこともあり、未実施の学年が多い。

### 【取組内容④】

・手洗い週間については特に児童の意識が高いため、しっかりとできているように思われる。そのため、学校評価アンケートの結果にも肯定的な回答が多くみられる。

・栄養指導についても計画通り、各学年で実施できている。

## 次年度にむけての改善点

### 【取組内容①②】

#### ① 「読み取る力・書く力・語彙」の強化

・書く機会の増加として、引き続き国語プリントや短文づくり・語彙の強化のための読書や辞書の活用等を国語タイムなどで実施していく。

・話型の整備：学校としての掲示物の統一と、対話のルール定着に向けた継続指導を行う。

#### ② 「読書習慣」の定着

・読書時間の確保：感想や評価を求めず、本に親しむ時間を確保するために、朝や給食後、隙間時間等は読書をするを共通理解として持つようにしていく。

・環境の工夫：学年ごとの学級文庫の選定（文字の多い物語中心にするなど）、地域図書館の活用、授業とリンクした本の紹介等を引き続き行う。

・音読の強化：国語科以外においても、児童が音読をする機会を設けるよう努めていく。

#### ③ 教員研修について

・内容の精査：全員一律ではなく、個々のニーズに合わせた研修受講等も入れ、内容の精査を行うようにする。

### 【取組内容③】

・目標をもって授業に取り組むためにも各学年等で作成した学習カードについては、学年の体育ファイルにファイリングして次年度にも活用できるようにしておく。

・なわとび週間、かけ足週間を通して意欲的に運動に取り組む児童もたくさん見られたため、今後も継続して実施していく。（かけ足を全学年で15分休みに実施する案、異学年とも行えるスポーツイベントを新たに企画してほしい案）なども出ているので検討する。

・合同体育についてはほとんどの学年で実施できているが、異学年との実施は現状、少し

難しい所もある。各学年での相談、調整等が必要になってくる。

- ・ 出前授業については、申し込みをしたとしても当選しなければ実施できないというのが現状である。出前授業の案内などの充実が必要になってくる。

**【取組内容④】**

- ・ 手洗い強調週間での児童の手洗いへの意識の向上はみられるが、終了するとできていない児童もみられる。年間を通した指導を継続的に行う必要がある。また、「丁寧な」手洗いの定着、ハンカチの重要性についても指導し、レモン石鹸の補充、ポンプ式の石鹸の補充、点検をこまめにチェックする必要がある。

大阪市立今津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%にする〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>→令和7年度 <b>2日</b></p> <p>※平均活用率については令和6年度 <b>52.8%</b> → 令和7年度 <b>60.2%</b></p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>→3月末全教職員が取得の予定</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の情報活用能力を高め、対話的で深い学びを進めるために、児童が学習者用端末を活用できる機会をつくる。</li> <li>授業でICTを効果的に活用できるよう努め、校内での情報共有を進める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級にて学習者用端末内「まなびのポータル（心の天気を基本に）」を週に複数回活用する。</li> <li>学習時・朝の学習タイム等において、「ナビマ」をはじめとする学習アプリを週に複数回活用する。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保中心に・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の心身の健康を維持し、児童の学びを深めるため、ゆとりのある職場環境を整えていく。</li> <li>業務や行事の精選をはかり、教職員が早く退勤したり、休暇を取得したりしやすい環境を醸成するための掲示や声かけを進める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</li> <li>長期休業（夏季・冬季）中に学校閉庁日を年間5日程度設け、一斉に休暇を取得できるようにする。</li> </ul>	<b>A</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【取組内容①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末の活用率は令和8年1月末までで60.2%（昨年比+7.4%）となり、活用頻度は上がってきた。一方、年度目標数値に至るまでにはまだ時間がかかる状況である。</li> <li>端末の更新後もまなびのポータルを中心に活用し、家庭への持ち帰りにも取り組みながら、活用の機会は増えている。一方で、心の天気の登録は習慣化してきているが、全体的にみると1か月の登録状況が36%（12月）であり、児童が自主的に登録できている、継</li> </ul>	

続性が高い、とは言えない。

- ・ICT推進リーダーを中心に、ICT研修を実施し、情報共有や実践を積み重ねる場が設定された。今後はICT支援員のフォローを受けながら、各種アプリ、機能を各学級で活用し、学習形態や授業展開の手立てとなるようにしていく。
- ▼学校全体では活用の偏りがあり、種々の活用例等を参考に、本校の現状と照らし合わせた活用スタイルを検討していくことも必要である。
- ▼端末の家庭での活用について、他校の活用事例や実態に応じた活用法等を探り、進めていく必要がある。

#### 【取組内容②】

- ・年次有給休暇取得10日以上は現時点で94%に達している。教職員に学校運営方針が理解され、協力し合いながら適宜取得できている状況である。時間外勤務の月平均（累計）も12月時点で昨年度よりも2時間47分ほど減少。全市平均と比較しても約5時間少ない。一人一人の協力と、一貫した取組の成果と考えられる。
- ・これまでの取組の積み重ねにより、ゆとりの日の設定や留守電対応の前倒し、閉庁時刻を早める等、定時に近い時刻に帰宅しやすい空気の醸成ができています。
- ・夏季休業中に閉庁日を5日、冬季休業中に3日設定でき、一斉に休暇を取得できる環境を整えられている。
- ・行事の精選が進んでいる。この状況を継続していく。

#### 次年度にむけての改善点

#### 【取組内容①】

- ・新しい学習者用端末が配備されたことを受け、児童が自宅でも端末を活用していける手立てを本校の状況や他校の取組などを参考に考えていく。
- ・ログイン後「心の天気」については、いじめ事案等において重要な指標になることを踏まえ、登録を継続的に行い、習慣化できるよう引き続き取り組んでいく。
- ・本校の現状から、無理のない活用スタイルを構築し、ゆるやかな活用率の向上を見据えていく

#### 【取組内容②】

- ・今後も継続してゆとりの日を設け、教職員が定時あるいは早めの退勤ができるようにし、日常的に18時台には学校施設を消灯できるように取り組んでいく。
- ・メリハリをつけた業務を心がけ、トータルで時間外勤務が減少するように取り組む。
- ・今後も行事の精選、会議時間の短縮を図りながら、校務負担を軽減し、横のつながりで分担できるように工夫していく。